

海洋教育パイオニアスクールプログラム 成果報告 1

- 1 学校名 沖縄県宮古島市立 池間小中学校
- 2 活動テーマ名 境界（地域・文化・世代・学校種）を超えたカリキュラムデザイン
「海と人とのかかわり」 ～海を知り、海で学ぶ～
- 3 実施の概要
 - (1) 海洋教育を介して主体的・協働的・対話的で深い学びに向けた実践を行う。
 - (2) 地域連携オーサー校の東大附属中等教育学校、連携校の夜間中学「珊瑚舎スコーレ」との交流の場を通して、生活環境や文化の違いから新たな価値を育み、自己の在り方を考えられるようになる子どもの育成を図る。
- 4 対象学年 小学1年～中学3年
- 5 実施教科 総合的な学習の時間、他



6 今年度の実践

(1) 計画からの追加・変更

① 追加

- ・親子オカガニ観察会（6月9日）
- ・アダンサミットの参加（6～8月）
- ・シャコ貝の生態学習・フェフキダイの稚魚放流（11月16日）

② 変更

- ・タコ燻製作り→カツオ燻製作り
アダン葉を使った活動に組み入れた。
- ・池間湿原調査→小3・4年の総合に下ろし、小5・6年と中学生で本活動に取り組んだ。

(2) 実践の成果

① 親子オカガニ観察会

島に多く生息するオカガニの生態についての学習会。
海の保護活動に取り組んでいるPTA会員による講話実施及び、
陸地から海を目指すオカガニの放卵様子を観察する。
自然と共存し、海を目指すオカガニの生命力、自然界の神秘さや
生命の尊さに気づくことができた。



② 池間ヒャーリクズ（海神祭）

120年以上も前から伝わっている、航海の安全・豊漁祈願の
伝統行事に参加。この行事では、中学生が地域の方や保護者から
船こぎの手ほどきを受け、爬竜船（はりゅうせん）競争に参加する。
また、小学生は船曳（ふなひき）競争や、水中競争に参加する。
古から伝わる行事の大切さや、後世につなげようとする島民の思
い、海に対する畏敬の念を学ぶことができた。



③ 海の体験学習

島が誇る美しい砂浜で、海の豊かさを存分に味わう体験学習。
中学生は、地域の方の協力で船釣り体験をし、小学生はシーカヤッ
クやシュノーケリング、生き物観察を行う。さらに、釣ってきた魚
を捌き、魚料理の体験活動を行う。

豊かな自然体験を通し、生き物の恩恵を受け、先人の生きる知恵
や自然と共存することの大切さを学び、島の将来を考える機会とな



った。

④ アダン葉を使った活動

アダン葉を燃料とした芋炊きや燻製作りに挑戦。

電気・水道・ガスが普及する前の池間島では、アダンは生活に欠かせない大切な植物であり、果実・根・葉・幹を余すことなく衣・食・住に使用されていた。当時の様子を島の年寄りから聞き取り調査し、地域や保護者とともに実証実験を行った。

お年寄りとの交流や成果報告会をもつことによって、生き物・文化・自然など考えを多岐に広げ、自分とのかかわりを深める機会となった。



⑤ シャコ貝の生態学習・フェフキダイの稚魚放流

身近なシャコ貝の生態を学習するとともに、フェフキダイの稚魚放流を行う。

普段食卓に並ぶ魚や貝が、どのような生態を持ち、どのように海で育つのかを知ることで、自然の恵みや命の大切さを学ぶ事が大きな収穫となった。また、地域漁業組合の協力により、栽培漁業と「海と人のかかわり」を知ることができた。



⑥ 東大附属中等教育学校・夜間中学（珊瑚舎スクール）との交流

これまでの体験活動から学び得たことを、学校の枠を超えて生活環境や文化の違う他者へ伝える。初めて、体験活動から得た知識を伝えることの難しさや、交流することの喜びを感じることができた。

さらに、生まれ育った故郷の良さを再発見し、広い視野で物事を見つめることで知識も深まり、自己表現することの重要性に気づき自らの将来の進路につなげる機会となった。



島の豊かな自然や様々な人との交流学习を通して、先人達が築き上げてきたものや守るべき事など、多くの学びがあった。また、伝統行事参加によって人々の祈り・自然への畏敬の念を学び、島の将来を考える機会となり学びを深めることで、「故郷愛」が育まれていった。

交流学习を通して、自然や文化、環境の違う人々とのふれあいから、自己表現する機会を与えられることで、生まれ育った故郷や小さな枠の中にいた自分にも、誇りをもって向かい合うことができるようになってきている。

(3) 次年度への課題

体験学習から得たものを他者にどう発信していくか、相手が発信してくることを自分の中でどう生かしていくのか、自分の考えとして広げていく。また、人とかかわりの中で学び得たものを自発的に生かしていこうとする力を継続的に伸ばしていきたい。

今年度は、当初の計画になかった取り組みや行事が多く、学習の内容が広範囲に渡ったため、事後指導の深まりが十分ではなかった。次年度は、視点を明確に絞り内容の精選を図りたい。

7 主な連携機関及び内容

「東京大学附属中」「夜間中学：珊瑚舎スコーレ」・・・海洋教育シンポジウムプロジェクト交流校

「池間小中学校地域教育コーディネーター」・・・アダンサミット取組

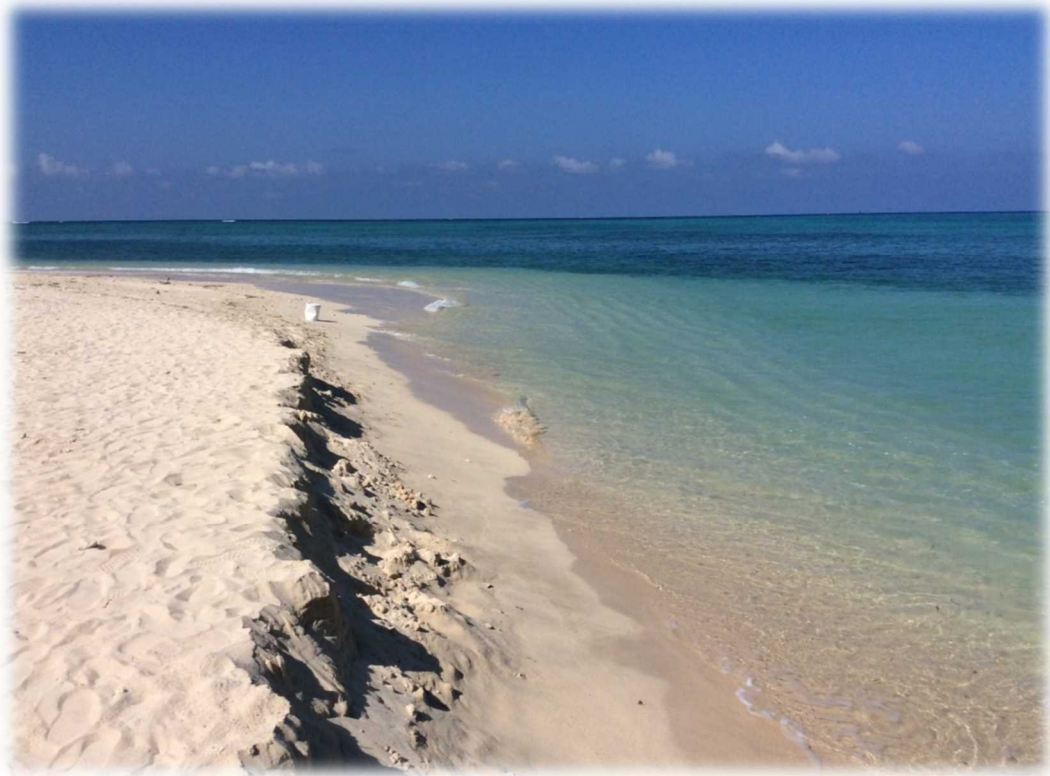
三輪大介氏・三輪智子氏・木下靖子氏・前泊博美氏・儀間利津子氏

「池間漁業協同組合長：与那嶺 大氏」・・・フエフキダイ放流・シャコ貝生態学習

「池間島シマ学校の皆さん」・・・アダンのある暮らしに関するインタビュー

「池間小中学校 PTA 会員：春川京子氏」・・・オカガニ観察会 事前学習の講話

「池間小中学校 PTA の皆さん」・・・海の体験活動、ヒヤークズ等の協力



海と人とのかかわり～海で学ぶ～

【活動のねらい】

本校では「海と人とのかかわり」から、池間島の伝統文化や地域行事、豊かな自然を生かした様々な体験活動を実施している。その活動や地域と連携した取組から、子どもたちに島の自然・文化・歴史お生かした「故郷学習」を充実させ「生きる力」を育んでいきたい。さらに、自分の生活環境と異なる様々な人との交流学习を通し、子どもたち一人一人の可能性を広げ探求的・協働的に学ぶ姿勢を育てる。

	月	活 動 内 容		
一 学 期	4	情報 収集 ・ 共有 する	○オリエンテーション：活動の見通し・計画	
	5		池間ヒャーリクス（海神祭） ・歴史伝統の学習・体験学習（爬竜船競争） ・事後学習（国語・美術）	
	6		親子オカガニ観察会 ・事前学習会（オカガニの生態）	
	7		海の体験学習 ・発達段階に合わせた体験学習 （生き物観察・シーカヤック体験 ・船釣り・魚料理体験など）	
	8		ア ダ ン サ ミ ッ ト の 取 組	アダンの葉採集 ・聞き取りインタビュー
	9			アダンの葉を活用した料理 ・芋炊き・カツオの燻製
	10			アダンサミット参加 ・事後学習、まとめ
二 学 期	8	ま と め る	東大附属中・珊瑚舎スコーレ交流会 ・異文化と人との交流から学ぶ	
	9			
	10		シヤコ貝の生態学習・フェフキダイの稚魚放流 ・事前学習会（池間漁協長） ・体験活動・事後学習	
三 学 期	1	発 信 す る	・成果報告に向け、役割分担	
	2		・発表原稿の作成、地域の方へ報告会実施 海洋教育成果報告会（代表生徒1名・教諭1名）	
	3		・シンポジウムに向け、準備	
			海洋教育シンポジウム参加（児童生徒14名・教諭3名） ・報告会・評価、まとめ	

